会津学知会 2019

「昭和 16 年夏の敗戦」（猪瀬直樹）ﾚﾎﾟｰﾄ

2019.06.09
s.kazumitu

2010 年 8 月 衆議院の予算委員会での石破茂（自民党幹事長）が、
猪瀬直樹氏の著書「**昭和十六年夏の敗戦**」を手にしながら、菅直人首相に迫る。

□総力戦研究所　1940 年（昭和 15 年）9 月 30 日付施行の内閣総理大臣直轄の研究所。

□内容　各官庁・陸海軍・民間などから選抜された若手エリート集めて、もし**「日米が戦えばどうなるか」　→　「総力戦体制に向けた教育と訓練」**

「国防」という問題について一般文官と軍人（武官）が一緒に率直な議論を行う。

□研究生

官僚	産業組合中央金庫参事・大蔵省主税局・内務省地方局	22
軍人	陸軍大尉・海軍機関少佐	5
民間	三菱鉱業･日本製鐵･日本郵船･東京高等学校教授	8
計		35

□日米戦争を想定した第 1 回総力戦机上演習（シミュレーション）計画

・研究所側から出される想定情況と課題に応じて軍事・外交・経済の各局面での具体的な事項（兵器増産の見通しや食糧・燃料の自給度や運送経路、同盟国との連携など）について各種データを基に分析し、日米戦争の展開を研究予測。

□シミュレーション 結果（近衛総理や東条陸相や、居並ぶ閣僚の前でその結果が発表）

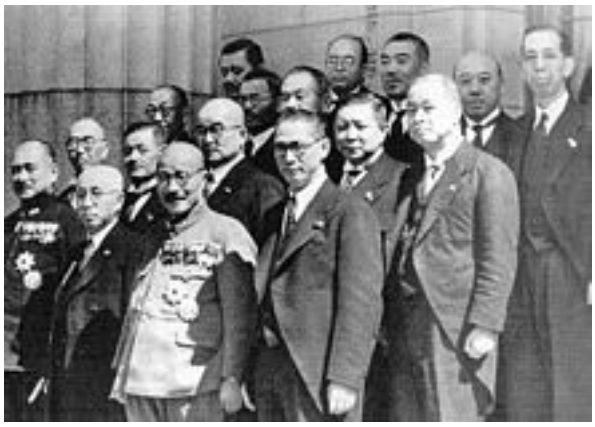
・「開戦後、緒戦の勝利は見込まれるが、その後の推移は長期戦必至であり、その負担に国力は耐えられない。戦争終末期にはソ連の参戦もあり、敗北は避けられない。
ゆえに戦争は不可能」という「**日本の敗北**」の結論を導き出した。

・実際の太平洋戦争をかなり正確に予測。
・冷静に当時の日本の国力を総合的に分析
↓
①船舶の喪失が生産量を上回り、戦争遂行が困難になる。
② ソ連とアメリカが軍事的に協力する。

※（**ソ連**の参戦あるいは**原子爆弾の投下**、それ以外はほとんどがそこのシミュレーションのとおりになる。）

□東條陸相　の意見

「諸君の研究の勞を多とするが、これはあくまでも机上の演習でありまして、實際の戰争といふものは、君達が考へているやうな物では無いのであります。**日露戰争**で、わが大日本帝國は勝てるとは思はなかつた。然し勝つたのであります。あの當時も列强による三國干渉で、やむにやまれず帝國は立ち上がつたのでありまして、勝てる戰争だからと思つてやつたのではなかつた。
戰といふものは、計畫通りにいかない。意外裡な事が勝利に繫がつていく。したがつて、諸君の考へている事は机上の空論とまでは言はないとしても、あくまでも、その意外裡の要素といふものをば、考慮したものではないのであります。なほ、この机上演習の經緯を、諸君は輕はずみに口外してはならぬといふことであります。」



□まとめ

・東條英機の「反論」は精神論。
・太平洋戦争は先見性のない人達がおこした無謀な戦争。
・腹の中では勝てるとは思っていないのに流れに逆らえない閣僚達。

『上層部にはしがらみがあったので、勝率が低くても戦争するしかなかった。
人間関係や空気で、合理的な結論を優先できなかった』

・米国との実力差を知らなすぎた国民、政治家、軍人。そしてマスコミ。

□満州事変　1931 年 9 月 18 日　関東軍が南満州鉄道の線路を爆破した事件
関東軍による満州全土の占領を経て、関東軍は約 5 か月で満州全土を占領した。

1932 年 3 月 1 日、満洲国の建国が宣言された。国家元首にあたる「執政」には、清朝の廃帝愛新覚羅溥儀が就いた。

□五・一五事件　1932 年 5 月 15 日に日本で起きた反乱事件。
武装した海軍の青年将校たちが総理大臣官邸に乱入し、内閣総理大臣犬養毅を殺害した。

未曾有の帝都大不穏事件

狙撃されて重傷の
犬養總理大臣遂に逝去

輸血も效なく昨夜十一時過

政界の巨星、兇彈に斃る

各閣僚の暇乞ひ

近衛公一同の慌ゝかな遺表

鈴木侍從長
天機を奉伺

□二・二六事件　1936 年 2 月 26 日から 2 月 29 日　皇道派の影響を受けた陸軍青年将校らが 1,483 名の下士官兵を率いて起こした日本のクーデター未遂事件である。

□日中戦争　1937 年（昭和 12 年）から 1945 年（昭和 20 年）まで、大日本帝国と中華民国の間で行われた戦争。

□南京事件　1937 年(昭和 12 年)12 月の南京戦において日本軍が中華民国の首都南京市を占領(南京陥落)。（南京大虐殺、事件の真相はいまだ不明である。？？）